



—コロナを越えて、教育は**進化&深化**する—

「オンライン」教育×「対面式」教育

その**ベストミックス**をめざして

High School **高等学校**

▶ トップ英進部・英進部 ▶ 総合進学部 ▶ 情報科学部

Junior High School **中等部**

Elementary School **小学部**

Kindergarten **幼稚園**

コロナを越えて、～「新たな教育」創造の時代へ 「オンライン」教育×「対面式」教育＝「ハイブリッド教育」をめざして

「ハイブリッド教育」とは、オンライン教育と対面式教育をベストミックスさせた、ICTを積極的に活用することにより、従来の対面式教育を超え、より深く高度な教育内容を、

より効果的で安定した教育形態です。作新学院では緊急時だけではなく平時から児童・生徒の学習進度や興味・関心に応じて学べる環境を実現します。

何が起きても「学び」は止めない。

新型コロナウイルス感染症拡大により一斉休校が要請される中、作新学院は4月後半から、県内でいち早くオンライン授業をスタートさせました。

「コロナ」という現実とどう向き合い、立ちふさがる壁を越えるのか。

どうしたらこの経験を、より良い「未来の教育」につなげられるのか。

誰もが「オンライン」という新たな教育現場で格闘し、対面式教育の重要性を改めて実感すると同時に、その限界も痛感する中、必死に模索を続け議論を重ねました。

そして“with コロナ”の今を、新しい教育の仕組みやあり方を創出するチャンスと捉え、ICT活用を加速させることによって、よりきめ細かく、より能動的な学習の実現をはかることを決めました。

作新学院が新たにめざす教育の姿—それが「対面式教育」と「オンライン教育」を適時適切に組み合わせ実践する「ハイブリッド教育」です。

- ◇ どんなことがあっても、質の高い学びを安定的に行えること。
- ◇ 子どもたち一人ひとりの学習進度や興味・関心に応じて、オーダーメイドの授業を実現すること。
- ◇ 誰かに教わるのではなく、「自ら学ぶ」主体的で能動的な学習を実践し、問題解決力を育成すること。
- ◇ 世界とつながり、自ら考え、他者と協力しあって社会を革新する“人間力”を育むこと。

「作新(新しき時代を作る)」の覚悟をもって私たちは、時間的・空間的制約や人間の限界を超えて行くためのツールとしてICTを活用し、理想とする教育を実現すべく努力を重ねて参ります。

“afterコロナ”の時代に、より明るく豊かな未来を築いてくれる人財を、一人でも多く世の中に送り出したい。

それが作新の願いであり、志です。

#学びを止めない ICT教育が子どもたちの可能性を拓く

学びの「安定」—いつでも どこでも 質の高い教育を—

時間的・空間的制約を超えて学べるため、予期せぬ事態でも教室と家庭を結び、各教科の授業をリアルタイムで、高いセキュリティのもと継続できます。また、学院の児童・生徒のみがアクセスできる授業用動画に、学びたい時、学びたい場所で、学びたいだけアクセスして繰り返し学習ができますので、より効率的に高い学習効果が期待できます。

学びの「最適化」—ニーズに合わせてカスタマイズ—

ICTの活用により一人ひとりの習熟度が可視化され分析できるので、個々の学習進度や興味・関心にマッチした、オーダーメイドの学習環境を作り上げることができます。また、そうした「見える化」されたデータを学校と家庭で共有しコミュニケーションを円滑にすることで、児童・生徒に対するよりきめ細やかな教育を実現して行きます。

学びの「活性化」—自律的に学び、協働的に解決する—

ICTを活用したバラエティに富んだコンテンツが児童・生徒の五感を刺激し、学びの機動力が高まることで、「教師に教えられる=受動的な学び」から、「児童・生徒が自ら学びとる=主体的な学び」へと、学習の姿勢を転換します。また授業中も、出席者同士の情報共有が瞬時に円滑に行えることにより、「協働的な学び(アクティブ・ラーニング)」をより活発に行うことができます。

学びの「革新」—世界とつながり、社会を革新する“人間力”を育む—

オンラインで世界とつながることにより、より広い視野と多様な価値観が醸成され、自ら考え、他者と議論を深める習慣を身につけることができます。社会的課題の解決に向け、多角的に情報を収集・分析し、自分なりの考察を深め、他者と協力しあって社会を革新して行ける総合的な“人間力”を育みます。



学びの「安定」
Stable



学びの「最適化」
Adaptive



学びの「活性化」
Active



学びの「革新」
Innovative



更なる次元の世界へ
～歩みを止めない！
オンライン学習活用で学力開花～



導入時期・内容

- 4/17(金) ●全教員Zoomダウンロード及び利用方法説明
4/18(土) ●ZoomによるWeb会議実施(全教員)
4/22(水) ●全生徒Zoomダウンロード及び利用方法説明
4/24(金) ●特別進学クラスでZoomによるオンラインHR開始
4/27(月) ●特別進学クラスでZoomによるオンライン授業先行実施(3教科)
5/11(月) ●Zoomによる個人面談実施(健康状況や学習状況の確認)
5/20(水) ●Cisco Webexアカウント登録及び利用方法説明

オンライン授業の特長

ZoomやCiscoWebexによる双方向(リアルタイム)でのHR及び授業
YouTubeによる学習動画配信(録画配信)

工夫した点

- 生徒個々のネットワーク環境を考慮し、リアルタイムでのオンライン授業とYouTubeによる動画配信を併用。
オンライン授業の学習効果を高めるため、PowerPoint使用による要点の整理と見やすい授業の実践。
デュアルモニターで、生徒の表情を確認できる授業展開。
理科実験は、ズームアップすることで理解度アップ。



迫力ある実験動画

興味を起こさせる授業作り

効果

- ICT教育を通して、生徒の学習意欲を刺激し学習効果を高めた。
学習の遅れに不安を抱く生徒たちを笑顔にすることができた。
今後の社会で必須となるICT機器へのスキルアップを図ることができた。
教員相互の問題意識の共有化により、協働性やチーム力が高まった。

生徒からの声

- 実際に教室で授業を受けているようで嬉しかった。
久しぶりに友達顔を見ることができて、当たり前のことが当たり前でなく感じた。
自宅にしながら程よい緊張感で授業に参加できたので良かった。
オンライン授業を受講する前に予習するようになり、授業理解と学力向上につながった。



教材を工夫したわかりやすい授業

今後の展開と展望

- 従来の対面型授業(教室での通常授業)に加え、ICTを活用した学習支援を積極的に展開。
⇒オンライン(双方向性)とオンデマンド(動画配信)のメリットを生かし、状況に応じて複合的に学習をサポート。(固定観念に捉われない臨機応変対応)
学習動画の配信を継続し、対面授業の復習ができる環境を提供。
生徒個々の通信環境の整備と使用端末の確保によりICT教育を推進。
授業の選択肢を増やし主体的な学びを促進。

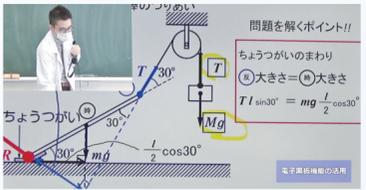


オンライン教材でポイントチェック



教室と変わらぬ緊張感

「ハイブリッド教育」が
「教育の最適化」を可能にする！
～ICTを駆使し、より深い探求を実現～



導入時期・内容

- 4/9(木) ●ICT研修担当教諭による「Web会議システム」研修会実施
4/13(月) ●「テレワーク」研修実施(通信状況の確認作業)
4/14(火)～4/16(木) ●オンラインHR実施
4/16(木)～4/24(金) ●Web会議開始
4/24(金) ●全クラス双方向オンライン授業開始 30分5時間授業
5月 ●土日を除き、祝日もオンライン授業実施
5/5(火)までは学年HR
5/6(水)以降はクラスごとにHR
5/11(月)～5/20(水) ●30分7時間授業実施
5/20(水)～5/25(月) ●Cisco Webex運用開始に応じて、45分7時間授業実施
5/25(月)～5/31(日) ●35分7時間授業実施

オンライン授業の特長

ZoomやCiscoWebexによる双方向(リアルタイム)でのHR及び授業
パワーポイント、デジタルノート、電子黒板を活用した教材

Point1 どこよりも早く！4月半ばオンライン化スタート！！

「学びを止めない」ことを第一に考え、県内でどこよりも迅速にオンライン化を導入。14日のオンラインHR実施を皮切りに24日から全クラスで双方向オンライン授業を開始。GWも積極的に学びを進めて休校措置による生徒の不安を解消。

Point2 1日84本の豊富なコンテンツ、420本の授業を配信

2017年からアカデミア・ラボでICTを活用し、遠隔教育「ネイティブの外国人講師によるイメージ授業」を行ってきた経験をベースに、オンライン授業をスムーズに展開。多様なコンテンツを教科、授業形態により使い分け、学習の幅を拡大。



画面共有で進度を確認

Point3 ICT機器活用の授業で理解度アップ！

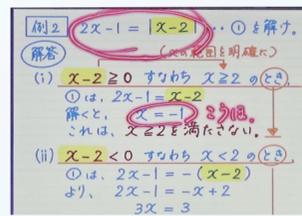
パワーポイント、デジタルノート、電子黒板などを活用して生徒の興味関心を高めるわかりやすい授業を展開。クイズや音声のやり取りでコミュニケーションを図り、生徒の理解度をチェックしてフォローアップ。



オンラインで絆を深める

Point4 リアルタイムのアットホームなコミュニケーション

生活のリズムを崩さぬよう、時間割を作成して通常と変わらない7時間授業を実施し、生徒のモチベーションを維持。リモートで「つながる」中で学力の定着を図ることはもちろん、オンラインHRで顔を合わせ、声掛けをして生徒の心身の健康を把握。



デジタルノートで重点チェック

効果

- 学びを進めることで、登校できない生徒の抱える不安の解消につながった。
各教科が工夫を凝らした教材を使用し、学習効果を高めた。
双方向性でコミュニケーションが取れるため、生徒のモチベーションを維持できた。
ICT機器を使うことで、教科やキャリアを越えた協力体制(チームワーク)が醸成された。

生徒からの声

- 先生の姿を見て授業を受けられることで、安心感が生まれ、集中できた。
音声のやり取りができて、指名されたらするので、適度な緊張感を持って授業に臨むことができた。
板書内容はもちろん、教材の工夫がなされており、わかりやすく、楽しみなが受講できた。
与えられるだけではなく、自ら積極的に学ぶことの重要性を痛感し、予習復習に力を入れるようになった。



真剣に授業に臨む生徒

今後の展開と展望

- 「21世紀型教育」導入先進校として、対面授業とオンラインの組み合わせによるハイブリッド教育を実践し、どんな状況でも学びを継続できる教育環境を整える。ICTを効果的に活用した多様なコンテンツで魅力ある授業を展開することで、生徒一人ひとりの能力を最大限に引き出し、確かな学力と予測不可能な時代を生き抜く「人間力」を育成。
⇒ アクティブ・ラーニングの推進
主体的・協働的な学習により、問題解決能力、新たな価値観を創造する力を育成。
教員作成の教材を動画配信
生徒が自由にアクセスして学習できる環境を構築。
課題配信
個々の理解度に応じたきめ細やかな学習支援。
Skype活用の有識者のオンライン講義
最先端のアカデミックな知見を教材に知的成長を促進。



オンラインでイメージ教育

多角的アプローチで
きめ細かく確かな学びを
～教育の時間は私たちが刻む～



導入時期・内容

- 4/13(月) ●野球部対象にZoomミーティング実施
●個々の自主練習の様子を確認
→自主練習動画にアドバイスを書き込み、限定公開
4/14(火) ●全教員対象Zoom研修及び接続
4/18(土) ●Web会議実施(在宅勤務時)
4/27(月) ●主要5教科15本+MD(※)1本の計16本の動画を配信
4/29(祝) ●全クラスでZoomによるオンラインHRを本格的に実施(平日、YouTubeにアップ)
5/2(土) ●Zoomで授業実施。同時にビデオ撮影(聖日、YouTubeにアップ)
5/18(月) ●副教科(体育・音楽・美術・家庭科)の動画配信実施
5/27(水) ●Zoom利用のMD(※)実施及び5教科動画配信(2回目)
6/17(水) ●副教科(体育・音楽・美術・家庭科)の動画配信(2回目)
●MD(※)実動画配信
※MD＝モーニングデベーション(聖話)

オンライン授業の特長

双方向HR、リアルタイム型授業、YouTube動画配信
各家庭の状況(端末やネットワーク状況など)に合わせた、さまざまな方面からのアプローチ

リアルタイム型授業+動画配信
→郵送での課題のやり取り+電話での質疑応答。
FAXで学習面や生活面をサポート。

工夫した点

- オンライン授業に必要なワークシートを事前に郵送し、授業をスムーズに展開。
国語 音読や文法の説明など、1人ではできないことを中心に配信。
社会 パワーポイントや事例を効果的に使い、ユーモアを交えた授業を実施。
数学 思考力が問われる演習課題に対して、生徒の理解を助ける解説動画を配信。
理科 繰り返し見られる媒体の特性を生かし、実験・観察を中心に実施。
英語 正しい発音を習得させるため、ネイティブ教諭の動画を配信。

効果

- 経験値の高い教員のガイドライン動画研修で、教員間の意識の統一が図れた。
スマートフォンの小さい画面でも見やすく、かつ分かりやすくなるように板書の要点や手元を大きく映すなど、撮影技術が向上した。
Zoom授業時の板書+パワーポイント活用や後日の動画配信で学習効果がアップした。
生徒が効率的に理解できる動画を試行錯誤しながら作成したことにより、教員のICTスキルが向上した。

生徒からの声

- YouTubeの配信で、分からない所を何度も繰り返し見られたことに感謝している。特に国語の朗読はわかりやすく、おかげで内容の定着が図れた。
新クラスになったが、ほとんどクラスメイトに会えなかったため、友達や先生の顔が見られてよかった。
休校中乱れがちだった生活が、HRの存在で改善できて規則正しい生活ができた。
オンライン授業で発言できたことをきっかけに、通常授業でも発言ができるようになった。

今後の展開と展望

通常の対面授業を行いながら TV モニターや iPad 等の ICT 機器を使用したオンライン学習を積極的に展開し、ハイブリッド型教育をめざしていく。生徒が興味関心を持ち、自発的な学習に取り組むことはもちろん、教員が生徒一人ひとりの状況を把握することで、個々の能力を大きく伸ばさせることができる。

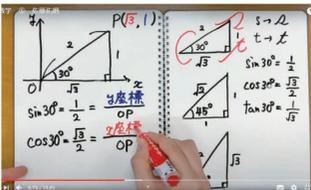


家庭科の授業をオンライン配信

ネイティブ教員による授業

Zoomによる健康確認

双方向授業が
生徒と学びをつなぐ！
～理解を深めるオンライン学習～



導入時期・内容

- 4/20(月) ●Zoomにて、部内職員会議実施
●休校期間を活用しZoom、Cisco Webexなど研修実施
4/27(月) ●ZoomによるオンラインHR実施
男女に分け少人数で行う。事後アンケート実施
5/7(木) ●YouTubeによる授業動画配信を試行
5/11(月) ●オンラインHR実施
授業動画配信(～5/29)
授業動画はYouTubeでの限定公開。各学年1日5コマを受講し「振り返りシート」にて確認作業を行う
5/13(水) ●分散登校による面談を実施

オンライン授業の特長

Zoom、CiscoWebexによるHRの実施、YouTubeによる学習動画配信
動画視聴後、副教材等を利用した個別演習を行い、1教科ごとに「振り返りシート」を記入し提出

動画配信に伴う「振り返りシート」活用について

【目的】

- ①授業への参加確認 ②作業に対する評価 ③感想記入=動画内容の評価
・科目や教科ごとに記入項目(設問等)を変え、動画を見なければ記入できないよう工夫。
・担任が添削、評価し、生徒に返却。生徒の力を育成することが最も重要と捉えて実施。
【学習効果】
①まとめたり、感想を書くことで、「書く力」が身に付く。
②記入をするために繰り返し動画を視聴することで、理解を深めることができる。

工夫した点

- 授業はYouTubeを利用した動画配信を基本とし、生徒たちが時間を問わず見たい時間に何度も視聴できるようにした。(作成コンテンツ数 約600)
一般教科の他に、専門学科実習での作業などを解説する動画を配信。
①通常授業のような黒板を使った講義型 ②パワーポイントによる動画型
③手元を写した提示型 ④実習作業を開設した実践型
など、授業内容にあわせた手法を用い、わかりやすい授業を心がけた。
・動画の管理を含め、クラウドの共有ファイルを活用することでいつでもどこでも閲覧・編集できるよう管理につとめ、教員間の情報共有・意識の向上を図った。

効果

- 約15分の動画作成に数時間の準備を要したが、教員全体のICTスキルが短期間で飛躍的に向上した。
視聴カウントの増加を目にすることで、生徒が何度も繰り返し視聴し、しっかりと学習に取り組んでいることが分かった。
生徒たちの学習意欲が向上した。

生徒からの声

- Zoomでは、先生や友達顔を見ることができて嬉しかった。
繰り返し視聴することで、自分のペースで学ぶことができ、理解が深まった。
学校で授業を受けているような感覚を持つことができ、学習の遅れの不安が解消された。

今後の展開と展望

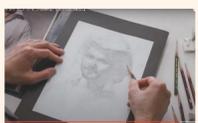
Society5.0の時代に向けた学校教育は、知識注入型の一斉指導から、生徒一人ひとりの状況に応じ個別最適化されることで、生徒主体の学びとなり、実社会で必要な「生きる力」の習得を目的とした学びに進化する。そのためには生徒たちの多様な資質や能力に柔軟に対応できる遠隔(オンライン授業・学習動画配信)と対面のハイブリッド型の授業を完成させなければならない。



家庭科動画



自動車整備実習動画



美術デッサン動画

ハイブリッド学習で
生きる力を育む
～未来へのオンライン～

導入時期・内容

- 4/6(月) ●アンケートメールにて児童の健康観察実施
4/13(月) ●遠隔授業に関する環境調査アンケート実施
4/23(木) ●課題引き取りのタイミングに合わせて、HPに学習コンテンツのページを掲載
●Zoomによる朝の会実施
下野新聞の取材を受ける(24日記事掲載)
●YouTubeによる学習動画配信を開始(初日に11本。5月末までに107本配信)
●全学年1回目のZoom朝の会実施終了
5/11(月) ●2回目のZoom朝の会開始
5/13(水) ●ロイノートスクール、Classtingの運用開始
6/20(土) ●オンラインの学校説明動画を配信

オンライン授業の特長

Zoom、ロイノート、YouTube、Classting、アンケートメール、小学部HPなどを活用した授業

休校中、不安を抱いている保護者や児童に「つながっている」という安心感を与えることを課題に、どこよりも早くオンライン教育を実施。個別指導にも対応。

工夫した点

- オンデマンド型(YouTube 動画やロイノートなど)の学習を基本とし、必要に応じて同時双方向型(Zoom など)の学習を組み合わせて実施。
学習支援ツールを使用して課題の提示や成果を蓄積し、休校期間中も学習を継続。
学校生活時間に合わせてZoomによる朝の会を実施。(授業の要素も加え、学校のつながりを深める取り組み)

効果

- 動画の編集や配信、授業支援ツールの活用を通して、教員のICTスキルが向上した。
オンラインで朝の会や授業を実施するためのシステムづくりで教員間の一体感が生まれた。

保護者からの声

- 子どもたちも、先生やお友達の顔を見られて喜んでいました。
休校中の生活にメリハリがつけました。子どもが飽きないようさまざまな工夫が施され、保護者も一緒に楽しめました。
朝の会は、さびしみに「学校に行きたい」と漏らしていた子どもの心に大きな潤いをもたらしてくれました。
先生方の取り組みに感謝する。今後も継続してほしい。

今後の展開と展望

学校再開を果たした今だからこそ、今後に向けての明確なビジョンを打ち出す必要性に迫られていることを自覚しなければならない。ハイブリッド学習を展開しつつ、①家庭において学習計画を立てること②学校という集団の中で経験を積み重ねなければならないことの双方を身に付けさせ、自主性や創造力、表現力を育成していきたい。



ロイノートで課題提出

双方向で児童と交流

Zoom朝の会で誕生会実施

オンライン作新祭 9月下旬 開催予定

—— 元に戻るのではなく、「新しく作る」 ——

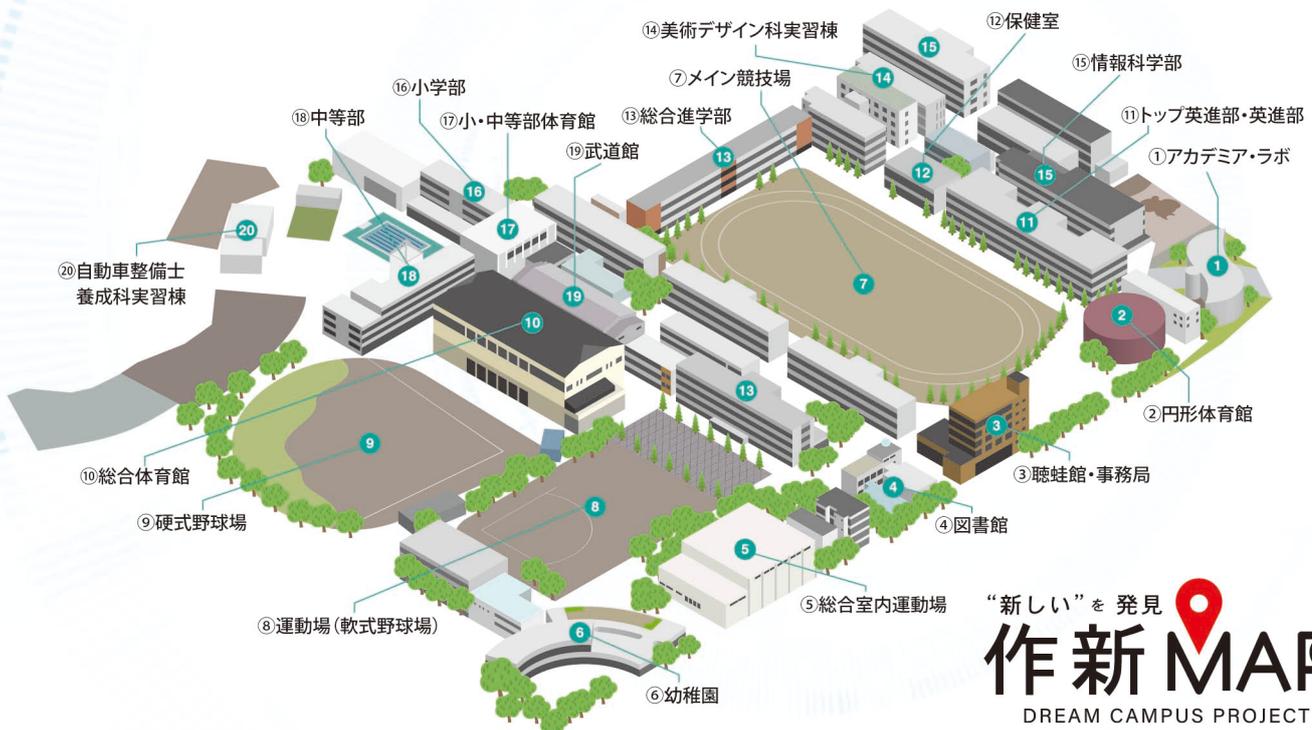
甲子園やインターハイなど様々な大会やイベントが中止となっている今年、創立135周年を迎える作新学院では、学院史上初となる「オンライン作新祭」を開催することとなりました。

今こそ、「オンライン空間」という未知なるまっさらなキャンパスに、自由な発想力と柔軟な頭脳を駆使し、今だからできる・今しかできない新しい世界を描き出します。「オール作新」と地域の皆様で、より豊かな温かい未来を生み出し、作り上げていきましょう！

詳細は学院ホームページをご覧ください <https://www.sakushin.ac.jp/>

コンセプト 5つのC

1 挑戦する / 2 元気づける / 3 つなげる / 4 好奇心(自由研究) / 5 作る
Challenge / Cheer up / Connect / Curiosity / Create



“新しい”を発見
作新MAP
 DREAM CAMPUS PROJECT